



附 青空いっぱい

【令和7年度 みんなの合言葉】

♪チャレンジ&ヒーロー

♪ひらく・つながる 附特のチャレンジ

チャレンジ&ヒーロー④ 現場実習報告会

6月23日(月)に現場実習報告会を行いました。高等部1年生は長崎大学で取り組んだ「校外実習」と先輩の実習先を訪問した「実習先見学」について、高等部2、3年生は自分で選択・決定した実習先で取り組んだ「現場実習」について一人一人が報告しました。生徒たちは、実習体験を通して考えた実習の成果とこれからの課題について自分の言葉でしっかりと発表していました。参加した中学3年生も報告を真剣に聞いており、高等部への憧れが高まったようでした。小・中学部の後輩たちにとっては高等部の先輩たちは「憧れ」であり、一番身近な「ヒーロー」だと私は思います。つまり、後輩たちは「高等部の先輩はすごいな」「私も先輩みたいになりたいな」と思っている、そのような目で先輩たちを見ているということです。そして、学校にとって、高等部の生徒は「希望の星」であり、「誇り」です。高等部の生徒たちのこれからの頑張りに期待するとともに、身近な憧れから学ぶ機会をこれからも大事にしたいと思いました。



台湾のおみくじ体験



熱気あふれる研修の様子

予定の時間いっぱい、生徒たちは交流を楽しみ、最後は名残を惜しみながら「謝謝(シェイシェイ)」と言ってお別れしました。生徒たちにとっては、とても貴重な経験になりました。

交流会の前には、施設見学と日本の特別支援教育についての研修会の時間を設けました。先生方からはたくさんの質問があり、全員が熱心に研修されていました。私たちも台湾の教育事情を伺うことができ、良い学びの時間となりました。

台湾の先生方。謝謝。再見。

ひらく・つながる 附特のチャレンジ④

業務支援室「きらサポ」の看板を作りました

令和6年4月に長崎大学に開設された業務支援室では、室員の皆さんが大学構内のいろいろな場所で、大学から委託された仕事に取り組まれています。業務支援室では、本校卒業生6名も働かれており、6月の現場実習では1名の実習も受け入れていただきました。

業務支援室の愛称は昨年度大学内の公募で「きらりサポートステーション(きらサポ)」に決まりました。本校高等部生徒たちもアイデアを出し合い愛称を考えて応募しましたが、残念ながら選外となりました。そこで、本校が何かお役に立てることはないかと考えて、看板作成について業務支援室にご提案したところ、快くその機会を提供くださいました。

今年度に入り、高等部美術選択の生徒が描いた絵を美術科の教員がデザイン構成して、耐久性のある材料・印刷により、長く親しまれる看板が完成しました。看板の下には「長崎大学教育学部附属特別支援学校高等部生徒制作 令和7年7月7日」と書かれたプレートがあります。機会がありましたら、看板をぜひご覧ください。



質問に答える高等部生徒



先輩に質問する中学部生徒

ひらく・つながる 附特のチャレンジ③ 台湾の先生方との交流(中学部)

7月3日(木)に台湾の特別支援学校・小学校・幼稚園などの学校で働かれている先生方が23名来校され、中学部の生徒と交流会をしました。

台湾の先生の授業では、2グループに分かれ、台湾のおみくじ体験や、台湾の歌やダンスをしました。また、全員で台湾の伝統的な遊びであるピンボール作りをしました。台湾のおみくじ体験では、願いを込めながらおみくじの木を投げ、向きがそろうと願いが叶うという体験をしました。木の向きに注目しながらおみくじの結果に一喜一憂し、歓声が上がると盛り上がりました。台湾の歌やダンスでは、みんなで輪になり手をつないで台湾の歌に合わせて踊りました。また、民族衣装を試着しながら、日本との違いを感じることもできました。

また、台湾の先生へ生徒たちがインタビューをしました。先生たちの回答を聞きながら、台湾と日本の文化との同じところと違うところを見つけて生徒は驚きの連続でした。くまもんやドラえもん、アンパンマンといった日本のキャラクターが台湾でも知られていることについては、一番の歓声が上がっていました。

